

平成 7年 1月 30日
平成 9年 3月 1日改定
平成 13年 12月 1日改定
平成 21年 7月 1日改定

会 員 各 位

荒川区卓球連盟
会長 北城貞治

荒 川 区 定 期 団 体 戦 規 定

荒川区卓球連盟の主催または主管する定期団体戦は以下の規定に基づいて行われるものとします。各大会においてこの規定と異なる内容で実施するときにはその大会の要項(案内)か開会式でその説明があります。

説明があった部分についてはその大会では説明の通りに実施されます。

説明のなかった部分についてはこの規定によるものとします。

1. 団体戦への申し込み

申し込み時に 1 チームについて荒川区卓球連盟に登録してある選手 4~7 名の申し込みをすることとします。

8 名以上の出場予定の団体は 2 チーム以上の申し込みをすることになります。

2 チーム以上の申し込みをする団体は最強と思われるチームを「A」、以下強いと思われる順に「B」、「C」……というようにチーム名の末尾に A, B, C……を付けて申し込みをします。

同一の選手を 2 つ以上のチームに申し込むことは同一団体のときも含めてできません。

男子の団体戦に女子が出場することはさしつかえありませんが、男子のチームに申し込むことは必要です。

荒川区卓球連盟に登録してある他の団体や個人から 1 名に限ってチーム内に含めて申し込む事ができます。

2. 当日の選手の変更について

1 チームの申し込みをした団体は当日必要があれば選手の変更・追加ができます。変更・追加によってあらたにそのチームに参加する選手は当日参加する他のチームに属していないこととします。当日、人数不足などで最初から棄権するチームの選手が変更・追加により他チームの選手として試合に参加することは可能です。ただし、そのチームが申し込みの要件を満たしていることは必要です。

2 チーム以上を申し込みした団体がその団体のなかで下位チームの選手を上位チームに変更することはできます。最も下位のチーム以外はこれ以外の選手の変更はできません。

なお、上位チームに申し込みしてある選手を下位チームへ変更することはできません。

また、一度変更した選手を再度変更することもできません。最も下位のチームは 1 チームの申し込みをした団体と同じに選手の変更・追加ができます。

いずれの場合でも各チームの選手の変更・追加は 1 名限りとします。

当日に選手の変更・追加のあるチームは開会式までに本部に連絡し、本部の了解を得てください。

3. 団体戦の試合成立の要件

事前に登録された選手のうち試合開始前に少なくとも 4 人が整列できる状態にあるとき、そのチームは団体戦が開始できる状態とします。

一方のチームが 3 人以下しか整列できない状態のとき、そのチームはその団体戦を棄権したものとします。

双方のチームが 3 人以下しか整列できない状態のときは双方のチームがその団体戦を棄権したものとします。

4. 棄権の取り扱いについて

ア 団体戦の棄権について

団体戦そのものが棄権になったとき、そのチームは団体戦のスコアを 0-3 で、すべてのゲーム・すべてのポイントも失った状態で負けたものとします。

対戦する双方のチームが棄権となったときには双方のチームとも団体戦のスコアを 0-3 で、すべてのセット・すべてのポイントも失った状態で負けたものとします。

リーグ戦において次の団体戦があるときには、その団体戦開始時に上記 3 の要件を満たしていればその団体戦は成立し、棄権にはなりません。棄権となった団体戦の前に行われたそのチームの団体戦があるときはその団体戦の成績は有効です。

【例 1】 朝、最初の団体戦の時に申し込みをした選手のうち 3 人しかいないチームはその団体戦は棄権になります。その後、申し込みをした選手の 1 人が来て 2 回目の団体戦の時に 4 人になれば 2 回目の団体戦は棄権になりません。

【例 2】 4 人で組んでいるチームの中の 1 人が 2 回目の団体戦終了後急用で欠けてしまい 3 人になってしまった時、そのチームの 2 回目までの団体戦の成績は有効です。3 回目の団体戦以降は棄権の扱いになります。

イ 個人戦の棄権について

団体戦開始後については各個人戦毎に棄権を考えます。

各個人戦で棄権のあったとき、棄権者は棄権した時以降のその個人戦のすべてのゲーム、すべてのポイントを失うものとします。

棄権以前にその棄権者がその試合で得たゲームや得点はすべて有効です。

棄権した個人戦以前の個人戦でその選手の得たゲーム・得点はすべて有効であり、棄権した個人戦以降のその選手の個人戦も有効です。

【例 1】 2 番のシングルスにオーダーされた選手が 1 番の試合を観戦中に気分が悪くなり 2 番の試合ができない時は 2 番の試合が棄権となり、0-3(0-11, 0-11, 0-11)で負けになります。

このチームがもともと 4 人で組んでいて 2 番の選手を除くと 3 人になってしまう状況でもチームがこの団体戦を棄権になることはありません。

また、この選手が次の団体戦に出場することはできます。

【例 2】 3 番のダブルスと 5 番のシングルスにオーダーされた選手が 3 番のダブルスで第 1 ゲームを 11-4 で先取した後、第 2 ゲームを 10-4 で勝っていた時に怪我で棄権した時は、3 番のダブルスは 1-3(11-4, 10-12, 0-11, 0-11)で負けになります。

その後 4 番の試合まで終了し団体戦のスコアが 2-2 になった時、この選手が試合に出場可能ならば出場しても構いません。棄権の場合は 5 番の試合を 0-3(0-11, 0-11, 0-11)で失うことになります。

5. オーダーの組み方と試合順

試合はすべて

1 番シングルス 2 番シングルス 3 番ダブルス 4 番シングルス 5 番シングルス

で行います。

シングルスはすべて異なる選手とします。3 番のダブルスは 1 番の選手と 2 番の選手で組むことはできません。

原則として 1 番から順次試合を行い、どちらかのチームが 3 つの個人戦を勝利した時点で終了します。

試合の進行上 2 つ以上の個人戦を同時に行う場合も数多くあります。

このときには 1 番から順次試合が行われたと仮定して、どちらかのチームが 3 つの個人戦で勝利するまで試合が行われたものとします。

2 つ以上の個人戦を同時に行う場合も含めて団体戦の開始後に故意に各個人戦の開始を遅らせることはできません。

【例】 4 番と 5 番を同時に行える状況の時に疲労の激しい 5 番の選手の試合を 4 番の試合より遅らせて始めることはできません。

4 番の試合と同時に始めることができない時には開始できない 5 番の選手が棄権負けとなります。

オーダーの組み方が間違っていたときには次のようにします。

ア オーダー交換からその団体戦の試合の終了時までの間に気付いたとき
整列時に双方のチームが対戦相手のオーダーを確認したときに間違いに気付くことがあるかと思
います。あるいは試合の途中で気付くことがあるかと思
います。
この場合、1 番から順番にオーダーを調べて間違いとなる個人戦のすべてのゲーム・ポイントは
オーダーを間違えたチームが失うものとします。そして、この処置はその間違いとなる個人戦が
終了していても団体戦が終了していない限り適用されるものとします。

【例 1】 1 番の選手と 2 番の選手で 3 番のダブルスを組んでしまったときは 3 番のダブルスでオ
ーダーを間違えたと判断します。

この場合には 3 番のダブルスが試合の開始以前か終了以降かを問わず、そのチーム
は 3 番のダブルスを 0-3(0-11, 0-11, 0-11)で失ったものとします。

【例 2】 一人の選手が 1 番と 4 番にオーダーされた場合は 4 番が間違いであると判断します。

この場合にはそのチームは 4 番を 0-3(0-11, 0-11, 0-11)で失ったものとします。

イ その団体戦の試合が終了したあとに気付いたとき
その団体戦のスコアはすべて有効とします。

団体戦は双方のチームが整列、団体戦の試合結果を確認した時に終了するものとします。

順番を間違えてオーダーと異なる選手が出場したときは次のようにします。

ア その団体戦の終了前に気付いたとき
順番を間違えて行った(あるいは行いつつある)個人戦を無効とし、改めて正規の個人戦を行
います。
これは、例えば 1 番と 2 番の試合を同時に始めたときどちらのチームが順番を間違えたか判断
のつかないこともあり得るからです。

イ その団体戦の試合が終了したあとに気付いたとき
その団体戦のスコアはすべて有効とします。

6. リーグ戦内での順位付け

リーグ戦内の順位は次のような順番で考えることとします。

ア 団体戦としての勝率の上位のチームを上位とします。

対戦相手の棄権なども1勝と数えます。団体戦を棄権したときも1敗と数えます。

イ 上記アが同率のチームがあったときはその同率のチームのそのリーグ内でのすべての個人戦の勝率の上位のチームを上位とします。

ウ 上記アとイが同率のチームがあったときはその同率のチームのそのリーグ内でのすべてのゲームの取得率の上位のチームを上位とします。

エ 上記アとイとウが同率のチームがあったときはその同率のチームの間だけの団体戦の勝敗で上位のチームを上位とします。

そのチームが2チームならばその2チームの対戦で勝利しているチームが上位となります。

そのチームが3チーム以上ならばその中だけの成績で団体戦の勝率のもっとも上位のチームを上位とします。それも同率の場合にはそのチーム間だけで個人戦の勝率、ゲームの取得率、得点率の順に同率でない部分が出るまで調べ、値の大きなチームを上位とします。

7. 入賞など

各ランク別に上位2チームを優勝、準優勝とし、入賞とします。

各ランク別に上位1チームが次回大会で上位ランクのリーグ戦に出場できるものとします。

各ランク別に下位1チームが次回大会で下位ランクのリーグ戦に出場することになります。

8. 一般的な注意

審判は双方のチームから出してお願いします。

ユニフォームは同一チーム内では統一すべきとは思われますが当分の間統一の必要はありません。

ゼッケンの着用にご協力ください。

この規定にない部分についてはその大会開催時点での日本卓球協会制定の

日本卓球ルール及びルール細則に従うものとします。

個人リーグ戦順位規定

個人戦のリーグ戦の順位については大会開催時点での日本卓球協会の制定のルール及びルール細則によるものとします。現行のルール及びルール細則では次の手順で順位付けするものと理解します。

この順位付けは荒川区定期団体戦規定におけるリーグ戦内での順位付けと異なります。

この順位決定以外の方法で行うときには要項(案内)か開会式でその説明があります。

- ア 各試合毎に勝者(棄権勝ちを含む)に2、敗者に1、棄権者(試合途中での棄権を含む)に0の勝ち点を与えます。棄権者の棄権した試合の前の試合までの勝ち点は有効です。棄権した後の試合ができるのであればその後の試合の勝ち点も有効です。

- イ リーグ内でそれぞれの選手の勝ち点を合計して勝ち点の合計の多い選手を上位とします。(通常は勝率の高い選手が上位となります。)

- ウ 上記イで勝ち点の合計が同じ選手はその同点の選手間の試合での勝ち点の合計の多い選手を上位とします。
リーグ内での勝ち点の合計が同じ選手2人のときにはその2人の試合で勝利をおさめている選手を上位とするという意味です。
リーグ内での勝ち点の合計が同じ選手3人のときでしたらリーグ戦内でのその3人の間だけの勝ち点の合計(最高でも4点)の多い選手を上位とするという意味です。

- エ 上記ウまでで順位の付かない選手がいた時には、その選手間での試合のみについてそれぞれの選手の取得ゲーム率を調べ、取得ゲーム率の値の大きい選手を上位とします。

- オ 上記エまでで順位の付かない選手がいた時には、その選手間での試合のみについてそれぞれの選手の得点率を調べ、得点率の値の大きい選手を上位とします。

ダブルスにおいてはこの規定中の「選手」を「組」と読み替え、この規定により順位を決定します。